

「公衆衛生」第77巻総目次

2013年(第1号～第12号)

数字は通巻頁数, ()は号数

特 集

◆ 77巻1号「公衆衛生の危機」

公衆衛生システムの危機—専門性とアイデンティティ強化のために: 佐甲隆, 6(1)

労働者保護から見たわが国の公衆衛生の危機: 車谷典男, 11(1)

子どもの支援と公衆衛生への期待: 莊保共子, 16(1)
医療崩壊を阻止せよ—国民皆保険制度と医療の未来: 今村聡, 26(1)

わが国の感染症対策と公衆衛生の課題: 中瀬克己, 30(1)

災害公衆衛生チーム(Disaster Public Health Assistance Team: DPAT)の創設と災害時における保健所の役割: 笹井康典, 36(1)

わが国の公衆衛生と保健所の危機: 櫃本真幸, 40(1)
公衆衛生医師のアイデンティティの危機: 白井千香, 44(1)

地方衛生研究所の将来: 小澤邦寿, 48(1)

◆ 77巻2号「歯科口腔保健を巡る話題」

これからの歯科保健行政の推進: 安藤雄一, 92(2)

超高齢社会における8020運動の現状と課題: 深井穂博, 97(2)

歯周病と全身疾患との関わり: 和泉雄一・青山典生・水谷幸嗣, 102(2)

歯科保健の国際比較: 尾崎哲則, 107(2)

歯科保健活動で「地域とつながる」ということ: 葭原明弘, 111(2)

咀嚼(噛むこと)の効用と嚥下障害: 福田雅臣, 116(2)

口臭の臨床と公衆衛生: 川口陽子, 122(2)

ドライマウス(口腔乾燥症)の現状と課題: 斎藤一郎, 126(2)

子どもへの虐待と歯科: 森岡俊介, 131(2)

◆ 77巻3号「慢性腎臓病～CKD」

慢性腎臓病(CKD)—新たな疾患概念の歴史とその意義: 前島洋平・横野博史, 186(3)

CKD早期発見プログラム(KEEP JAPAN)の成果と課題: 高橋進, 191(3)

CKDの予防・治療標準化と地域医療連携: 今井圓裕, 197(3)

CKDと心血管疾患の関連性—国内コホート研究の成果から: 二宮利治・清原裕, 203(3)

CKDの効果的な普及啓発手法—日本慢性腎臓病対策協議会の取り組みを中心に: 安田宜成・松尾清一, 207(3)

地方自治体におけるCKD対策プロジェクト: 高本佳代子, 213(3)

患者会の立場から見たCKD対策の現状と課題: 宮本高宏, 218(3)

小児CKDの早期発見と腎臓病学校検診の意義: 上村治, 223(3)

◆ 77巻4号「転換期の結核対策—医療と予防」

低まん延時代におけるわが国の結核医療体制の展望: 加藤誠也, 270(4)

地域の結核医療

① 北海道の結核医療体制の現状と課題: 鎌田有珠, 274(4)

② 東京都の結核医療体制の現状と課題: 吉田道彦, 278(4)

③ 和歌山県の結核医療体制の現状と課題: 駿田直俊, 282(4)

④ 長崎県の結核医療体制の現状と課題: 川良数行, 287(4)

外国人結核患者の動向と結核医療の課題: 藤山理世, 292(4)

結核感染診断検査の原理とその検査の実施上の課題: 原田登之, 297(4)

潜在性結核感染症対策の展望—世界の現状・日本の現状: 伊藤邦彦, 302(4)

プライマリケアセンターを基盤とした結核センター構想—大阪市の「西成特区構想」: 高鳥毛敏雄, 306(4)

◆ 77巻5号「若者の精神保健①」

若者の精神的退却現象: 井上洋一, 350(5)

ひきこもりと不登校: 斎藤環, 355(5)

若者の貧困問題: 橘木俊詔, 360(5)

若者と貧困—就労の現状から: 小杉礼子, 365(5)

若者に見られやすい精神障害：清田晃生，369(5)
新型うつ病：野村総一郎，374(5)
新入社員のメンタルヘルスの課題と教育：福田洋，378(5)

痩せ願望と摂食障害：切池信夫，385(5)

◆ 77 巻 6 号「若者の精神保健②」

自傷行為：松本俊彦，430(6)
家庭内暴力：伴茂樹，434(6)
若者の違法薬物の使用実態の現状と行政の対応について：大貫奈穂美，438(6)

若者の薬物依存の治療：小林桜児，443(6)
コミュニティと地域での青年のサポート機能：田中哲，447(6)

引きこもり・不登校への精神科デイケア—育む精神科医療：児玉隆治，451(6)

ひきこもりの若者への地域での支援活動の現状と課題：内田太郎，456(6)

薬物依存の若者への社会的支援活動の現状と課題：倉田めば，461(6)

◆ 77 巻 7 号「医療安全のさらなる推進に向けて」

医療安全施策の動向—行政の取り組み：古屋好美，518(7)

医療安全支援センターの取り組みと医療機関との連携：東健一・浜田進一，522(7)

病院における医療安全管理体制—特定機能病院の取り組みを通して：海渡健，526(7)

医療安全管理における看護職の役割と地域連携の推進：杉山良子，531(7)

医療安全にかかわる人材育成—効果的な教育を目指して：石川雅彦，535(7)

医薬品の安全管理体制—職種間連携による医療安全の向上：荒井有美，539(7)

医療事故防止に向けて—原因究明と再発防止：後信，544(7)

「医療版失敗学」のすすめ—インシデントから学び、真の医療安全にトライする：濱口哲也，548(7)

◆ 77 巻 8 号「血液事業のトピックス—身近な献血から iPS 細胞の活用まで」

わが国の血液事業の回顧と今後の展望：西本至，608(8)

献血推進のための効果的な広報戦略：田中純子・秋田智之，612(8)

献血者確保のための採血基準の見直しと環境整備：菅河真紀子・河原和夫，619(8)

献血時副作用および輸血副作用の現状と予防策：岡崎仁，624(8)

血液製剤の適正使用と安全確保：富山佳昭，630(8)
血液製剤の安全性確保のための新興感染症などへの対応：百瀬俊也，635(8)

広域災害における血液事業の危機管理—大震災での経験を踏まえて：中島信雄，643(8)

骨髄バンク・さい帯血バンク事業の課題と展望：齋藤英彦，648(8)

iPS 細胞を用いた血液製剤開発の現状と展望：木村貴文，653(8)

◆ 77 巻 9 号「衛生行政を担う人材—獣医師・薬剤師」

戦前の衛生行政における獣医師・薬剤師の役割：横田陽子，702(9)

衛生行政にかかわる獣医師の卒前・卒後教育の現状と課題：吉川泰弘，706(9)

衛生行政領域にかかわる獣医師の役割と課題：森田邦雄，711(9)

公衆衛生，健康科学に対する薬剤師の役割と教育—現状と将来展望：高木達也・白國優子，716(9)

地域保健および地域医療における薬剤師に期待される役割—その現状と課題：児玉孝，721(9)

医薬品の安全対策などや乱用薬物の取り締まりにかかわる厚生労働技官の現状：國枝卓，726(9)

兵庫県の衛生行政領域における獣医師の現状と専門性確保の課題：村上和典，730(9)

食品安全行政の専門職確保と専門性の維持—自治体調査結果からみた現状と課題：清原昭子・工藤春代・新山陽子，735(9)

◆ 77 巻 10 号「日常生活とアレルギー」

食物アレルギーの現状：近藤直実・小玉ひとみ・熊田ますみ・松野ゆかり，790(10)

給食での食物アレルギー事故と学校生活での注意点—検証委員会および再発防止委員会での検討：笹本和広，796(10)

(旧)茶のしずく石鹼によるアレルギー：松永佳世子・矢上晶子・中村政志・佐野晶代・小林東，801(10)

大気汚染とアレルギー：井上健一郎，807(10)

ラテックスアレルギー：赤澤晃，813(10)

金属接触アレルギーと全身型金属アレルギー—皮膚科の立場から：足立厚子，820(10)

身近に潜む金属アレルギーへの対応法—歯科の立場から：松村光明・岡本寛之，826(10)

コチニール色素とアレルギー：杉本直樹・穂山浩，833(10)

行政における食物アレルギー対策：丸井英二，838(10)

◆ 77 卷 11 号「院内感染対策」

院内感染の起炎菌とその発生動向：八木哲也，878(11)

院内感染対策—行政の立場から：緒方剛，883(11)

院内感染対策の実際と医療機関間の連携：岩田敏，887(11)

院内感染対策におけるチェックポイント—標準予防策の徹底と環境整備：森兼啓太，893(11)

抗菌薬の適正使用：朝野和典，898(11)

アウトブレイク事例から学ぶ—バンコマイシン耐性腸球菌の院内感染事例：佐藤厚夫，902(11)

アウトブレイク事例から学ぶ—妊婦を初発とする結核の院内感染事例：伊礼壬紀夫，906(11)

目で見る院内感染対策：美島路恵，910(11)

◆ 77 卷 12 号「がん対策の強化」

わが国のがん対策の評価—新たな政策立案に向けて
“評価 1.0”から“評価 2.0”への道のり：埴岡健一，948(12)

がん予防研究の成果と新たな展開：津金昌一郎，956(12)

がん診療連携拠点病院の課題と展望：山口建，961(12)

がん医療情報の提供に関する新たな展開：柳澤昭浩，968(12)

「がん対策推進基本計画」の重点課題への対応

①地域がん登録の現状と新たな展開：柴田亜希子，973(12)

②がん緩和の現状と課題：江口研二，978(12)

③働く世代のがん検診の課題と受診促進策：松田徹・本間清和，983(12)

④がん患者の就労支援—わが国の現状と今後の課題：高橋都，987(12)

⑤小児がん対策の新たな展開：藤本純一郎，992(12)

視 点

アフリカの結核対策—DOTS 推進に向けて：徳永瑞子，2(1)

これからの公衆衛生に期待すること—臨床医の立場から：貞本晃一，88(2)

ひとりひとりの公衆衛生—図書館員として：磯野威，182(3)

禁煙・嫌煙権運動 35 年と今後の課題：渡辺文学，266(4)

駐在保健婦の聞き取りから見えてきたこと：木村哲也，346(5)

国際保健協力の人材育成を考える：綿引信義，426(6)

大規模災害と公衆衛生：奥村順子，514(7)

済生会生活困窮者支援なでしこプランについて：齋藤洋一，602(8)

ビッグ・データ時代の臨床研究と公衆衛生への期待—医学への敬意，医療への感謝，研究への希望：佐瀬一洋，698(9)

地域診断と公衆衛生看護(保健師)活動：渡會睦子，786(10)

公衆衛生学に期待すること—医療におけるソーシャル・イノベーションの牽引役を：門田守人，874(11)

人獣共通感染症対策に貢献する獣医学：大槻公一，944(12)

特別記事

【鼎談】大阪市の「西成特区構想」とわが国の結核対策の課題：古知新・下内昭・高鳥毛敏雄，136(2)

特別寄稿

未来図を描く公衆衛生活動 in 陸前高田 ①—震災から 3 年目 本当の悲しみに公衆衛生は何ができるのか：佐々木亮平・岩室紳也，466(6)

安全な物的環境を考える：笈淳夫，554(7)

未来図を描く公衆衛生活動 in 陸前高田 ②—復興中長期に不可欠な人「財」育成とポピュレーションアプローチ：佐々木亮平・岩室紳也，745(9)

未来図を描く公衆衛生活動 in 陸前高田 ③—新たに生まれている「格差」と向き合うために：佐々木亮平・岩室紳也，1001(12)

トピックス

新型インフルエンザ等対策特別措置法による公衆衛生的対策などについて：一瀬篤，740(9)

資 料

運動継続の支援方法としての携帯電話の利用可能性：岡本希・中谷敏昭・松崎三十鈴・菊川早苗・岡野雅洋子・永原理英・車谷典男，79(1)

天然痘テロは起こるか？：蟻田功・武本重毅，505(6)

住宅型有料老人ホーム入居者にかかわる看護，介護関連職と主治医との連携の実態：小川裕，686(8)

フォーラム

医療観察法で処遇された者の社会復帰の現状—保健所のアンケート調査から：辻本哲士・角野文彦・村田浩・中原由美・梶本まどか・黒橋真奈美，931(11)

活動レポート

東北大学大学院医学系研究科による東日本大震災被災者支援の試み—地域保健支援センターの活動：中原篤史・柿崎真沙子・佐藤真理・佐藤紀子・平野かよ子・押谷仁・辻一郎，416(5)

運動教室の企画・運営・評価研修の開催—調査結果を踏まえた事業展開：野田華子・稲葉やす子・種田行男・大淵修一，590(7)

発展途上国と熊本の人材育成に関するネットワークづくり—国立病院機構熊本医療センターの取り組み：武本重毅・Ratiorn Pornkuna・杉和洋・芳賀克夫・河野文夫，865(10)

地域事情

バングラデシュの僻地(パーバヤージャバ)における水問題：梅村朋弘・長谷川美香・日下幸則・福原輝幸，257(3)

連載

◆ リレー連載・列島ランナー

医療法と地方自治体：加藤昌弘，75(1)

保健所における災害医療対策の取り組み：長坂裕二，169(2)

保健所に求められるもの：福澤陽一郎，253(3)

多職種が集うワールド・カフェで在宅医療を推進する：松岡宏明，334(4)

倉敷市における精神保健対策—くらしき心ほっとサポーター：田中知徳，413(5)

地域診断と公衆衛生活動：田代敦志，498(6)

医師確保に向けて：古川次男，586(7)

地域医療連携情報ネットワーク構築の渦中に投げ込まれて：恵上博文，678(8)

減塩食のすすめ：平紅，776(9)

地域保健・医療の役割に気づいてから公衆衛生医師となるまで：大原宰，860(10)

地域における感染症対策ネットワークの構築：西田敏秀，924(11)

地区社会福祉協議会と連携したこころの健康づくり：嶋田純子，1022(12)

◆ 衛生行政キーワード

平成24年度歯科診療報酬改定について：中園健一，174(2)

麻疹に関する特定感染症予防指針の改正について：梅木和宣，338(4)

難病対策の改革の方向性について：西嶋康浩，502(6)

妊産婦と乳幼児の健康診査のあゆみ：山本圭子，778(9)

アレルギー疾患対策について：西嶋康浩，863(10)

移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律：廣瀬佳恵，928(11)

がん対策における新たな取り組みについて—小児がん対策，がん患者の就労支援：赤羽根直樹，1027(12)

◆ 保健活動の try！ 学会で発表しよう 論文を執筆しよう：中村好一

編集委員会とのやりとり(その3)：55(1)

論文刊行の後：143(2)

おわりに：230(3)

◆ 災害を支える公衆衛生ネットワーク～東日本大震災からの復旧，復興に学ぶ：佐々木亮平・岩室紳也

陸前高田市を支えた保健所機能：59(1)

復興を推進する「未来図」へ：148(2)

[対談] 改めて，支援から協働へ—連載の最終回を迎えて：235(3)

◆ 講座/健康で持続的な働き甲斐のある労働へ—新しい仕組みをつくろう

危険有害な労働環境の現状と今後の改善方策：久永直見，65(1)

放射線作業者の健康—リスク評価，リスク管理の視点から：武林亨，154(2)

産業環境の変化と労働災害管理システム：草柳俊二，241(3)

労働関連疾患としての循環器疾患，糖尿病，不眠症などの実態，予防対策—働く人の疾病予防と健康づくりのために：吉岡英治・西條泰明・岸玲子，322(4)

国際労働基準の日本での批准状況：吾郷真一，401(5)

労働安全衛生体系と自主的改善：小木和孝，485(6)

労働安全衛生統計・調査と予防活動：小木和孝，570(7)

中小企業の自主的安全衛生支援をどう進めるか—関係機関・専門職の連携を求めて：柴田英治，671(8)

産業医制度の歴史と課題：堀江正知，763(9)

チームとしての産業保健活動—産業医以外の職種はどう位置づけられ活躍すべきか：五十嵐千代，848(10)

産業技術職(エキスパート)の位置づけと改革の方向性：酒井一博，919(11)

地域における労働者の安全と健康—地域保健と産業保健・職域保健の現状と課題：宮下和久，1011(12)

◆「笑門来健」笑う門には健康来る！～笑いを生かした健康づくり：大平哲也

笑うと呼吸機能が良くなる？—「笑い」と「呼吸機能」との関連について：69(1)

笑うと肩こりが良くなる？—「笑い」と「肩こり」との関連について：159(2)

笑うと冷え性が良くなる？—「笑い」と「冷え性」との関連について：245(3)

笑うと脳血流量が増加する？「笑い」と「脳機能」との関連について：327(4)

誰でも笑える方法とは？「笑いヨガ」と「健康」との関連について：405(5)

誰でも笑える方法—「笑いヨガ」を用いた健康教室について：490(6)

音を楽しむ！—音楽療法と笑いとの共通点：576(7)
楽観的な人は長生き？—楽観主義と健康との関係：768(9)

幸せな人は長生き？ 笑う門には福来る？：853(10)
笑いを生かした健康づくり—地域における笑い与健康づくり活動：1015(12)

◆公衆衛生 Up-To-Date

[国立感染症研究所発信：その1]

警戒しないといけない輸入感染症の話題「デング熱，チクングニア熱」：高崎智彦，72(1)

[国立感染症研究所発信：その2]

麻疹(はしか)・風疹の流行と予防接種に関する話題：多屋馨子，163(2)

[国立精神・神経医療研究センター発信：その1]

国立精神・神経医療研究センターと医療計画：堀口寿広・奥村泰之・伊藤弘人，249(3)

[国立精神・神経医療研究センター発信：その2]

科学的根拠に基づく自殺予防総合対策のための学術団体の連携—コンソーシアムの設立：稲垣正俊・竹島正，331(4)

[国立がん研究センター発信：その1]

がん診療連携拠点病院制度の見直しについて：若尾文彦，409(5)

[国立がん研究センター発信：その2]

がん医療に関係する専門家の育成について—がん薬

物療法に関して：田村研治，494(6)

[国立長寿医療研究センター発信：その1]

災害時の新たな課題—「防げたはずの生活機能低下」予防

そのターゲットとしての生活不活発病：大川弥生，580(7)

[国立長寿医療研究センター発信：その2]

認知症の危険因子と予防に関するエビデンス：島田裕之，675(8)

[国立健康・栄養研究所発信：その1]

健康食品の国際比較：千葉剛・梅垣敬三，772(9)

[国立健康・栄養研究所発信：その2]

国民健康・栄養調査の現状：奥田奈賀子，857(10)

[国立環境研究所発信：その1]

環境分野における DOHaD 研究：野原恵子，1019(12)

◆中国高齢者の健康と福祉

連載「中国高齢者の健康と福祉」をはじめるにあたって：多田羅浩三・趙林，311(4)

中国高齢者の健康管理の推進：郭清・周弛・孟凡莉・陳雪萍・訳/趙林，312(4)

中国における高齢者介護の実態と展望：閻青春・訳/趙林，391(5)

中国高齢者の年金制度：桂世勳・訳/趙林，472(6)

中国における総合医の育成による地域保健医療サービスの推進—北京市からの報告：楊玲・杜雪平・訳/趙林，560(7)

浙江省における高齢者介護費保障システムの研究：王先益・戴曉青・研究チーム・訳/趙林，659(8)

上海市における高齢者“9073 モデル”ケアサービスの構想：章淑萍・訳/趙林，752(9)

◆この人に聞きたい！

ロコモティブシンドローム：大江隆史，318(4)

緑内障，白内障：岩瀬愛子，397(5)

抗加齢医学—アンチエイジングの基礎と臨床：白澤卓二，478(6)

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)：道川武紘・新田裕史・川本俊弘，566(7)

疲労とは何か—疲労を客観的に評価する：倉恒弘彦，666(8)

排尿障害：後藤百万，758(9)

ピロリ菌除菌と胃がんリスク検診：加藤元嗣，842(10)

サプリメントと医薬品：井関健，916(11)

遺伝性乳がん・卵巣がん症候群(HBOC)とその予防：山内英子，1006(12)

コラム

◆ 列島情報：日置敦巳

海外旅行と食中毒：96(2)

要介護者の動向：222(3)

◆ 公衆衛生「書評」

たぐいまれな、近現代医学の歴史教科書としても優れた書「日本近現代医学人名事典」：早石修，326(4)
必ずや疫学を楽しく学んでいただけることを確信できるテキスト「基礎から学ぶ楽しい疫学」第3版：廣田良夫，330(4)

臨床で必ず遭遇する世界最大の感染症を明察『医療者のための結核の知識 第4版』：桑野和善，483(6)
「患者にとってよいこととは？」をハーバード大学の教授らが分析『決められない患者たち』：日野原重明，629(8)

楽しく、まじめで、人なつこい。そんな著者の人柄あふれる入門書 基礎から学ぶ楽しい学会発表・論文執筆：川村孝，923(11)

「患者にとってよいこととは？」をハーバード大学の教授らが分析『決められない患者たち』：日野原重明，939(11)

◆ 予防と臨床のはざまで：福田洋

職域におけるヘルスリテラシー：84(1)

第10回日本ヘルスプロモーション学会ダイジェスト：176(2)

「性差からみた総合健診」シンポジウムインプレッション：261(3)

親友との別れ：341(4)

特定保健指導第2期に向けた座談会：422(5)

さんぽ会・東海，始動！：510(6)

第86回日本産業衛生学会健康教育・ヘルスプロモーション研究会：598(7)

Japan-Korea Joint Symposium on Metabolic Syndrome：694(8)

さんぽ会5月月例会「生活習慣病対策2013～特保第2期のフォーカス」：782(9)

第21回ヘルスプロモーション・健康教育国際会議：870(10)

クラウド医療・健康・福祉フォーラムに参加して：940(11)

さんぽ会20周年記念・夏季セミナー2013：1032(12)

◆ 映画の時間：桜山豊夫

もうひとりのシェイクスピア：64(1)

東ベルリンから来た女：162(2)

八月の鯨：248(3)

海と大陸：296(4)

天使の分け前：421(5)

三姉妹～雲南の子：509(6)

そして AKIKO は…～あるダンサーの肖像～：597(7)

アンコール!!：693(8)

楽園からの旅人：781(9)

飛べ！ダコタ：869(10)

ふたりのアトリエ～ある彫刻家とモデル：938(11)

少女は自転車にのって：1031(12)

◆ ジュネーブからのメッセージ

公衆衛生の最良の日々はこれからだ！：中谷比呂樹，15(1)

グローバルヘルスの課題は非感染症(NCD)へー日本の高齢者対策の出番ー：中谷比呂樹，115(2)

日本人初の WHO 事務局長(第四代)中嶋 宏先生を悼む：中谷比呂樹，256(3)

パートナーシップのからくり：中谷比呂樹，291(4)

新しい公衆衛生の基礎体力：中谷比呂樹，354(5)

Why not Both!? ①：中谷比呂樹，471(6)

Why not Both!? ②：中谷比呂樹，559(7)

たかがMDGs されどMDGs：中谷比呂樹，691(8)

シンデレラ・ディジーズのNTD：中谷比呂樹，751(9)

新しい公衆衛生を支えるヘルス・リサーチ：中谷比呂樹，868(10)

1万キロ離れた日本とスイスの対話：中谷比呂樹，937(11)

ゆく年くる年：中谷比呂樹，1018(12)

◆ お知らせ

第15回看護国際フォーラムのお知らせ：553(7)

認知症の人と家族への援助をすすめる

第29回全国研究集会発表者公募のお知らせ：685(8)

第2回日本NP協議会研究会

治し、支える医療のキーパーソンとしての特定看護師：739(9)

日本精神衛生学会第29回大会のご案内：751(9)

心理教育・家族教室ネットワーク 第17回研究集会 仙台大会

「はじめよう家族教室 ふかめよう心理教育」：935(11)

国際シンポジウム：日本における健康格差と「健康の社会的決定要因」—社会疫学研究の到達点と課題：972(12)